

## 令和5年度 公益財団法人日本いけばな芸術協会事業報告

### (1) 事業の概要

私たち公益財団法人日本いけばな芸術協会は、流派の壁を越えた、いけばな芸術の普及活動に取り組む者を会員としており、事業は、会員と理事会、事務局の協働により実施している。

#### 1 展覧会

##### 1-1. 本部展

「第56回日本いけばな芸術展」を令和5年9月27日(水)～10月2日(月)の会期で、日本橋高島屋S.C.を会場として開催した。本展は4年ぶりの開催となり、協会の会員である各流派の家元等わが国のいけばな界を代表する専門家152流派676名が作品を披露し、24,536名の入場者に、芸術としてのいけばなに触れ、興味を持ち理解していただく機会となった。また、会場通路には、「いけばな文化史年表」と「時代におけるいけばなの花型」、「協会のあゆみ」のパネルを展示しいけばな芸術に関する普及・振興を図った。

9月30日(土)には、「こどもいけばな体験教室」を特設会場において開催し、小学1年生～中学3年生の25名が参加した。協会発行の「こどものいけばな」をテキストに、直接花に触れ、いけることでいけばなへの興味を持つ機会となり、より豊かな人間性の涵養ができた。

##### 1-2. 地区展

「日本いけばな芸術中国展」を令和5年4月12日(水)～17(月)の会期で、岡山高島屋を会場として開催した。地区展の目的でもある「地域文化といけばな融合」のもと、岡山県が誇る備前焼とのコラボレーション作品席、一般からの出品席も設け、広く伝統文化の浸透を行った。協会役員と中国地区における協会の会員である各流派の家元等わが国のいけばな界を代表する専門家26流派336名が作品を披露した。また、会場通路には、「いけばな文化史年表」と「時代におけるいけばなの花型」、「協会のあゆみ」のパネルを展示しいけばな芸術に関する普及・振興を図った。

4月15日(土)に「こどもいけばな体験教室」を特設会場において開催し、小学1年生～中学3年生の29名が参加した。協会発行の「こどものいけばな」をテキストに、直接花に触れることでいけばなへの興味を持つ機会となり、より豊かな人間性の涵養ができた。

4月12日(水)に「日本いけばな芸術展交流会」をホテルグランヴィア岡山にて開催し、地域の各種担い手とメディア関係者、一般からの出品者と会員との出会いの機会を提供し、地域文化といけばなを通じた地域振興が促進される基盤が形成できた。参加者から飲食代実費12,000円を徴収している。

令和6年に開催する「日本いけばな芸術信越展」の準備業務として、信越地区と一般からの出品予定者が集い、信越展の会場となる新潟伊勢丹にて会場の視察とホテルオークラ新潟にて信越展の概要説明、意見交換を行った。参加者から飲食代実費2,000円を徴収している。その後、開催地である新潟県を中心とした役員・会員にて、実行委員会を行った。

##### 1-3. 特別企画展

令和5年度は実施せず。

#### 2 調査、資料収集

令和5年度は実施せず。

#### 3 会誌・事務局報の発行、WEBサイトの運営

会誌「花」第48号を令和5年8月20日に発行した。創立55周年記念展等に関する報告、令和5年度理事会・評議員会報告、会計書類等を掲載し、会員への周知がはかれた。作成部数は4,000部である。

「事務局報」第3号を令和5年4月20日に、第4号を12月20日に発行し会員相互の情報を提供した。作成部数は各4,000部である。WEBサイトでご覧になった一般の希望者に会誌（3冊）及び事務局報（1冊）を提供した。WEBサイトの運営では、ホームページに情報公開（令和5年度事業計画、令和5年度収支予算書、令和4年度事業報告、令和4年度会計報告）の更新をした。「6月6日はいけばなの日」周知のため、共通ハッシュタグをつけたインスタグラムへの投稿など、情報の発信をした。

#### 4 いけばな普及に関する出版物頒布

「こどもいけばな」「はじめよう！いけばな」の頒布により、いけばな芸術の振興を図ることができた。

「こどものいけばな」は、令和5年度新入会者、こどもいけばな体験教室参加者、学校へ行こう参加者に頒布した。

またWEBサイトでご覧になった希望者等には一冊300円（令和5年10月より330円）で販売し、いけばなの普及活動ができた。「こどものいけばな」の令和5年の頒布数は1,629冊（うち販売は1,071冊）で令和5年12月末の残部は2,920冊である。

「はじめよう！いけばな」は、令和5年度新入会者に頒布した。またWEBサイトでご覧になった希望者等には一冊500円（令和5年5月より550円）で販売し、いけばなの普及活動ができた。「はじめよう！いけばな」の令和5年の頒布数は966冊（うち販売は114冊）で令和5年12月末の残部は5,253冊である。

#### 5 いけばな普及活動事業

農林水産省 YouTube チャンネル「BUZZ MAFF」における「花いっぱいプロジェクト」の動画投稿

農林水産省の依頼により、いけばなの動画制作に協力し、広く一般に向け、いけばな芸術への関心と理解を広めることができた。

横浜国際園芸博覧会に向けてー6月6日 いけばなの日 いけばな LIVEー

公益財団法人横浜市緑の協会との共催により、令和5年6月3日（土）に、ホテルニューグランドタワー一館「ペリー来航の間」にて、池坊・小原流・草月流による「いけばなパフォーマンス」を行った。この様子は、YouTubeでも配信され、広く一般に向け、いけばなの魅力を伝える機会となった。

横浜国際園芸博覧会に向けてー教育プログラム 学校へ行こうー

横浜市からの依頼により、横浜市内の小学校6校にていけばな体験教室を開催し、小学5年生～6年生の309名が参加した。協会発行の「こどものいけばな」をテキストに、直接花に触れることでいけばなへの興味を持つ機会となり、より豊かな人間性の涵養ができた。

横浜国際園芸博覧会に向けてー動画撮影、編集、発信ー

2027年に横浜で開催される「国際園芸博覧会」の機運醸成事業の動画作成に際し、「いけばな」の歴史など、情報確認等に協力した。広く一般に向け、いけばなの魅力を伝える機会となった。

農林水産省「和の空間」いけばな展示

農林水産省の依頼により、農林水産省別館玄関ホールの組立式茶室「和の空間」において協会所属流派による作品展示を行い、いけばな芸術への関心と理解を広めることができた。

農林水産省 2023年ドーハ国際園芸博覧会

農林水産省より受託した、株式会社JTBコミュニケーションズより、日本国展示屋内メイン展示出展及びいけばな展示の依頼があり、担当流派を紹介した。日本国外の方々に向けて、いけばなの魅力を発信する良い機会となった。

第32回森と花の祭典「みどりの感謝祭」式典挿花

農林水産省の依頼により、「みどりの感謝祭式典」においてステージ上のいけばな装飾を行った。実際にいけばな芸術に触れる機会を提供することができた。

## 6 助成（非応募型）及び寄附

豊かな人間性に根ざしたより良き社会の形成に寄与するため、不特定多数の者の利益の増進に取り組む団体に対して助成（非応募型）及び寄附を行った。寄附先及び金額は、公益社団法人日本動物福祉協会 200,000 円、公益財団法人がん研究会 200,000 円、公益財団法人高松宮妃癌研究基金 200,000 円で、合計 600,000 円を寄附した。

その他の事業（相互扶助等事業）について

### 他 1 認証式

「令和 5 年度認証式」を、令和 5 年 9 月 27 日（水）ホテルニューオータニ東京「鳳凰の間」を会場に開催した。名誉特別会員 52 名・特別会員 86 名・正会員 53 名が会員認証を受け、いけばな関係者 190 名の参加のもと、流派を超え交流を深める事ができた。

参加者から飲食代等として 18,000 円の実費を徴収している。

### 他 2 周年事業

令和 5 年度は実施せず。